



徳山大学 校友会誌

第8号

昭和62年10月15日

発行所 徳山大学校友会
〒745 山口県徳山市久米
徳山大学学生課内
TEL 0834 (28) 0411 (代)
発行責任者 豊岡正行
編集発行人 秋本辰己



61. 11. 8 徳山大学校友会関東支部結成パーティー (於)東京ガーデンパレス

第一回 徳山大学 関東支部同窓会開催

お久しぶり、今どうしているの？
参加したOB諸氏の懐かしげな顔
笑い、感激で会場内は熱気と学生
時代の想い出に満ちていた。

昭和六十一年十一月八日(日)、東
京都文京区、東京ガーデンパレス
にて、第一回徳山大学関東支部同
窓会が盛況に開催された。

関東支部は、まず本学を卒業後、
就職のため上京しているOB諸氏
の就職先、現住所の確認作業から
始められた。卒業後かなりの年月
が経過しており、転勤などあり連
絡ができなかったが約六十名の確
認がとれた。

今回は、多忙にもかかわらず十
名の参加により関係者の一人とし
て大変嬉しく思う。

大学側からは、出張で上京中の
佐原昌弘学生部長がかけつけてく
れたのをはじめ、校友会役員が参
加した。

まず豊岡正行校友会々長の関東
支部結成の祝いの言葉で始まり、
続いて関東支部支部長沖正明氏
(徳山曹達勤務)の喜びの言葉と
続いた。そして、来賓挨拶で、佐
原昌弘学生部長よりお祝いの言葉
をいただいた。

一人ずつ、近況報告を兼ねて自
己紹介を述べてもらった。全員懐
かしさに、学生時代の想い出、友
人、結婚、恩師のことなど語り合
い、いつのまにか時間が過ぎてい
った。もっと長くこのまま語り続
けていきたい、学生時代に戻りた
い、そんな気持ちになった人もい

るであろう。想い出を語るには、
あまりにも短い時間であったので
はないであろうか。

時間も過ぎ終わりに近づいてい
た頃、会場内の照明が突然消えた。
本会企画の16ミリの上映である。
OB諸氏には、懐かしい本学の姿
が目止まったであろう。昨年、
徳山大学後援会にて制作された大
学案内のフィルムである。まず、
あの懐かしの校歌で始まり、学内
の諸施設、授業風景、年間の主な
行事等が次々に映し出されること
に大きな歓声がわいた。

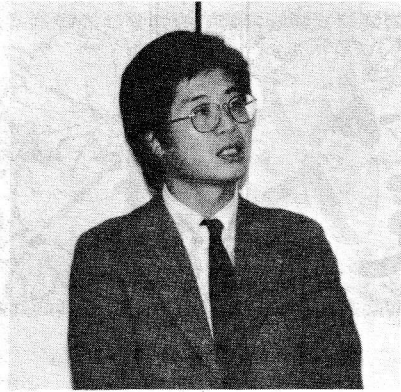
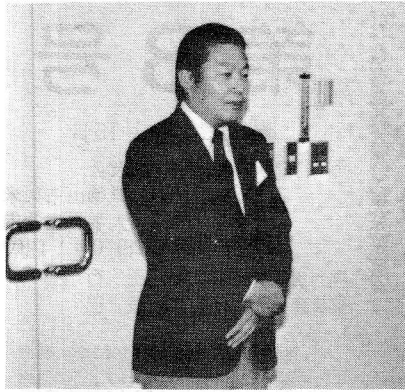
今回参加したOB諸氏も一期生
から十一期生までおり、今まで名
前も顔も知らなかった同志もいた
が、いつのまにか意気投合し、時
の過ぎるのを忘れ語り合っていた。
最後に本会開催を記念して、全
員で記念写真を撮影した。その後、
場所を二次会に移し第一回徳山大
学関東支部同窓会は幕となったの
である。

この度の広島支部に続く関東支
部の結成は、校友会組織の拡充に
大きく貢献してくれるものと期待
している。

参加されたOB諸氏はもとより、
次回の同窓会の多数のご参加があ
りますようお願い申し上げます。
これからのOB諸氏の益々のご
活躍を役員一同祈念しています。



同窓会スナップ



昭和62年度予算書

歳入の部		備考
科目	予算額	
前年度繰越金	441,609	
会費	4,750,000	
第14期生会費	4,680,000	
追徴会費	50,000	
推薦会費	20,000	
雑収入	330,000	
雑収入	300,000	Tシャツ、コピー、名簿
受取利息	30,000	
合計	5,521,609	
歳出の部		備考
科目	予算額	
会務運営費	2,751,000	
備品費	50,000	スチール製引出し
会議費	500,000	
通信費	590,000	機関誌 2回 540,000円
事務費	220,000	コピーキット 72,000円 2回
渉外費	100,000	
慶弔費	70,000	
諸会費	1,000	
交際費	100,000	
旅費交通費	420,000	タクシー、旅費出張費
記念品費	500,000	卒業生記念品
人件費	200,000	
部費	1,520,000	
企画部費	520,000	機関誌、校友会文庫、卒業生名簿、
組織強化部費	1,000,000	周南支部結成、同窓会、学生援助費
奨学費	344,000	
基金	500,000	61年度3月末累計額
事業積立基金	500,000	10,476,094円
予備費	406,609	
合計	5,521,609	

昭和61年度決算書

歳入の部		差異	備考
科目	予算額	歳入額	
前年度繰越金	998,113	998,113	0
会費	4,630,000	5,010,000	△ 380,000
特別会計繰入金	1,372,166	1,372,166	0
雑収入	530,000	675,830	△ 145,830
事業積立基金取崩し	2,500,000	0	2,500,000
合計	10,030,279	8,056,109	1,974,170
歳出の部		差異	備考
科目	予算額	歳出額	
会務運営費	3,213,000	2,072,773	1,140,227
備品費	50,000	0	50,000
会議費	500,000	286,093	213,907
通信費	590,000	257,680	332,320
事務費	282,000	227,750	54,250
渉外費	200,000	142,890	57,110
慶弔費	70,000	36,000	34,000
諸会費	1,000	0	1,000
交際費	100,000	15,000	85,000
旅費交通費	550,000	473,560	76,440
記念品費	570,000	446,000	124,000
人件費	300,000	187,800	112,200
部費	1,286,000	572,927	713,073
企画部費	586,000	350,000	236,000
組織強化部費	700,000	222,927	477,073
奨学費	0	268,000	△ 268,000
15周年記念事業費	2,500,000	2,200,800	299,200
特別会計出資金	2,500,000	2,500,000	0
基金	0	0	0
事業積立基金	0	0	0
予備費	531,279	0	531,279
繰越金	0	441,609	△ 441,609
合計	10,030,279	8,056,109	1,974,170

61年3月末累計額 10,476,094円

徳山女子短期大学開学

昭和六十二年四月四日、待望の

徳山女子短期大学の第一回入学式が挙行され、今、キャンパス内は、明るく活気に満ちています。

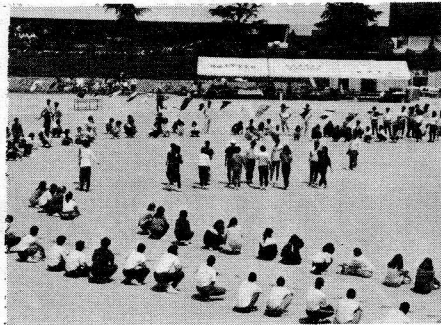
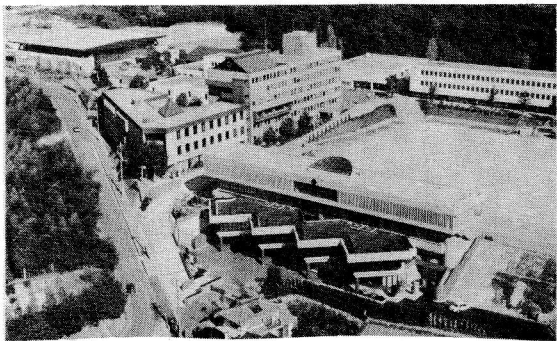
新緑の濃い五月二十日には、大学グラウンドで第一回合同体育祭が開催され、学生約四五〇名が、紅白に分かれて競技を行ないました。障害物競争・玉入れなどに珍プレー、ハッスルプレーの続出で、男子学生にとってもいつも以上に張り切っている姿が目につきました。

五月二十三日には、開学式が行なわれ、地元企業関係者、来賓等多数を招き、徳山女子短大生徒執行部代議員長、川島由紀さんが代表として「恵まれた環境の中で技術と心を持った女性になるために頑張ります。」と、誓いの言葉を述べた。

また、課外活動においても、硬式テニス部・バスケットボール部・バドミントン部・コンピュータ部などが、徳山大学と記念館（体育館）を共用して練習を行なっています。

同好会も同時に発足し、山口市の県体育館で行なわれた「第三回全日本女子柔道団体優勝並びに山口県選考会」で活躍した和田小織さんや若田直美さんも柔道同好会を結成し、徳山大学柔道部員とともに連日練習に励んでいます。

OB諸氏にとっても、待ち望んでいた徳山女子短期大学でもあり、徳山に来られた時には、お気軽にご来学をお待ちしています。



昭和六十一年度入試結果

及び現況報告

激戦であった昭和六十一年度入試も無事終了し、四月三日の入学式に、新たに六一八名の新入生を迎えることとなった。

六十二年入試を振り返ってみると、受験生にとって大変きびしい年であったといえる。六十年を境として18才人口が急増し、受験生一〇〇万人時代を迎える入試状況の中で、本学も志願者が着実に伸び二〇五〇名と、初の二〇〇〇名突破となった。これは過去最高であった昨年度よりも四六八名の大幅増である。今春は女子短期大学の開学年でもあり、教育施設や環境の拡充等の理解が得られたことが、進路決定のうえで大いに左右したものである。

入試別での特色としては、推薦・一般の各二次試験が昨年度に比べ高い倍率となった。(推薦二・四倍↓三・二倍、一般一・六倍↓四・三倍)六十一年度のイメージで志願し受験した者にとっては、いささか驚きがあったと思われる。この主な要因としては、全体の志願者はもちろんのこと、一次試験の合格者の内、予想以上に入学辞退者が少なかったことがあげられる。

次に県別の入学者数に目を向けると、例年通りトップは広島県で以下山口・愛媛・岡山と続く。上位四県の昨年度との比較は、広島一三四名↓一九六名、山口一八八名↓二二八名、愛媛五三名↓四九

名、岡山四一名↓二九名となっている。この中で特に目を引くのは、広島的大幅アップと岡山のダウンである。このような状況となった原因として、先に述べたように受験人口増加に伴う受験競争激化で、受験者の地元思考が強まったと考えられる。地元山口でも志願者が大幅に伸びており、また新入生を対象としたアンケート調査においても、選択理由として地理的条件をあげている者が多くみられた。

今年度入試の主な変更点としては、推薦が一回になったことである。前述したように二次試験が高倍率で、せっかく推薦してもらっても多くの受験生を落さなければならなくなったことや、他大学の多くが推薦を一回にしていることなどの状況が、その主な要因である。

願書請求状況においては、現在のところ昨年並みとなっている。これを昨年以上大幅に上回っているためには、本学の評価が西日本全域に浸透しようとしている状況下でこそ、きめ細やかな広報活動を展開する必要がある。その一例として、受験者並びに在学生の出身校訪問等を、例年以上に丹念に行っており、本学の教育理念や全体像を十分理解してもらおうことに鋭意努力している。

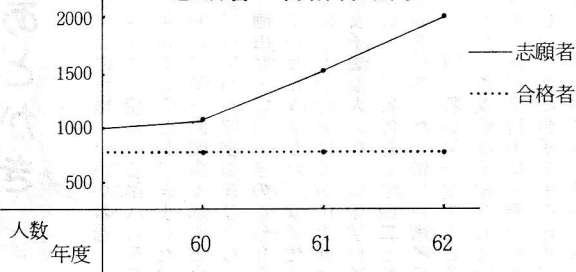
校友会諸氏については、母校のより一層のレベルアップを図るため、あらゆる職場や地域での積極的活動を期待する。

出身県別入学者数

() 内女子数

山口	128 (5)	香川	18	宮崎	3	滋賀	1	群馬	1
広島	196 (2)	徳島	15	鹿児島	3	三重	2	外国	1
岡山	29 (1)	福岡	22	沖縄	5 (1)	愛知	2	計	618 (11)
島根	11	佐賀	12	兵庫	24	岐阜	2		
鳥取	11	長崎	13	大阪	28	静岡	1		
愛媛	49	熊本	2	京都	11	神奈川	1		
高知	17	大分	7 (2)	和歌山	11	東京	1		

志願者・合格者動向

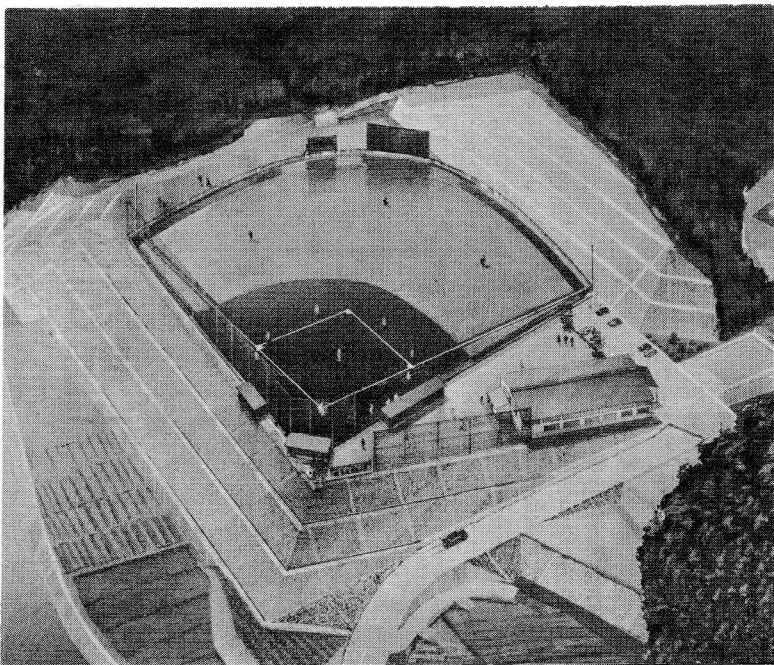


須々万グラウンド 完 成

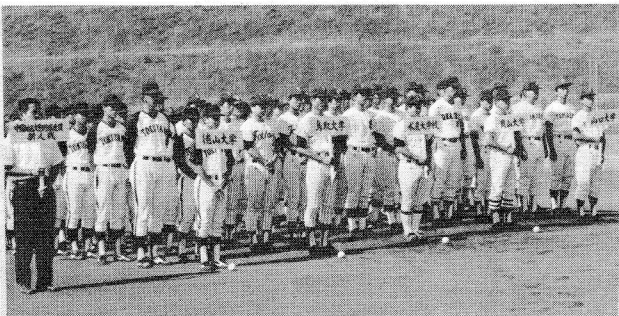
六月二十六日徳山市の北部に位置する須々万に六十一年六月より工事を進めていた須々万グラウンドが完成した。総面積三六、一三四・九三㎡のうち野球場九、六四七㎡(両翼91m、センター118m)、雨天練習場五三六㎡鉄骨造一階立(練習場、管理室、ポンプ室、シャワー室等)、ゲートボール場一面二三〇㎡の整備工事で総工費一六八、〇〇〇万円を投じ完成した。

グラウンド開きに 第一回中国地区 大学野球新人戦 我校優勝!!

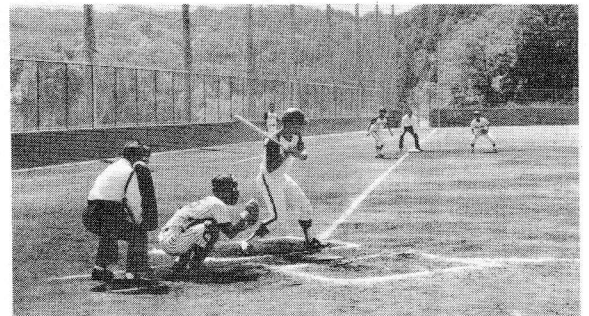
須々万グラウンドの完成を記念して、六月二十六日より二十八日(三日間)中国地区大学野球連盟主催の第一回中国地区大学野球新人戦が須々万グラウンド野球場で



開催された。大会はトーナメント方式により行なわれ、徳山大学野球部が順当に勝ち上がり、決勝に進んだ。決勝は岡山商科大学と対戦、徳山大が逆転して初優勝し、グラウンド開きに花を添えた。また、個人賞の最高殊勲選手に梶原礼士君(二年・滝川第二高校出身)が受賞した。



- ▼1回戦
鳥取大 0100001
徳山大 26200212
(5回コールド)
- (鳥) 日下部 野沢 (徳) 梶原 大西 困島 (目下) 福永 (目下) 部) 梶原、榎尾 (徳)
- ▼2回戦
岡山理大 0000000
徳山大 14444x13
(5回コールド)
- (岡) 井木、小谷 角田 (徳) 日高 大西 柑子木 (徳)



- ▼準決勝
岡山大 100000001
徳山大 100206x9
(7回コールド)
- (岡) 小田 橋本 (徳) 城山、岡田 大西 大西 (徳)
- 山口大 2000000002
岡山商大 320001129
(8回コールド)
- (山) 小野又、中野 松岡
(岡) 藤井、大住 柳川 困町 (小野又) 木村 (岡) 竹内 (山)

- ▼決勝
岡山商大 0001010002
徳山大 10000012x4
- (岡) 古田 河村 (徳) 日高、梶原 大西 困島 (徳) 田村 (徳) 町、木村 (岡)

OBだより

OBから職員へ



十二期生 山田 貴義

学生時代にフォークソング同好会を発足、初代主将として三年間活動し、想い出深い所となった、徳山大学。

卒業したのは一年前の春でした。「もう一度徳山大学に帰ってきたい」こうした切なる願いが通じているでしょうか。今ベンを走らせている場所は、まぎれもなくキャンパス内なのです。と言っても、別に遊びに来ているわけではありません。正式に採用していただいたのです。

今年の四月より、徳山女子短期大学が設立された事は、みなさまも存知のことと思います。何もかもが新しく、すべてにおいてこれから創っていく大学です。私はその総務係としてがんばっております。

「短大の職員ですか、いいですね」とよく言われます。実際はけっこう気を使う点も多く、家に帰るとグッタリしている毎日なのです。しかし、教職員の方々は何者達と一緒に創っていく喜びは何者にも変えがたいものがあります。今、最高に充実しています。今後徳山大学OBの名に恥じぬよう精一杯やりたいと思っております。

あとかぎ

校友会の皆様、いかにお過ごしでしょうか。校友会誌第八号をやっと発刊することができました。今回は、第一回関東支部同窓会及び、今年四月開学の運びとなつた、徳山女子短期大学のご紹介をさせて頂いていただきました。女子短大の受験者も予想をはるかに上回り徳山女子短期大(経営情報学科)の定員一〇〇名に対し、四二七名の受験者があった。厳しい選考の結果、一四六名が第一期生として入学した。校友会誌で紹介している様に、各大学行事にも華やかさがまし、本学の男子学生を始め、教職員の心の中にも、華やかな大学キャンパスの訪れを感じています。うらやましく思われるOB諸氏には、是非一度、ご来学を、また、発展する本学を、多くの方に紹介する目的で、徳山大学後援会(父兄会)が、本学の紹介ビデオを製作しました。ご希望の方は同封の案内用紙をごらん下さい。次回、校友会誌第九号は、来年三月に発刊予定です。女子短大を含めた、大学各行事のご紹介を企画しております。

事務局より
校友会事務局の事務を長い間お手伝いいただいた、奥田洋子さんが結婚の為に退職されました。この度、新しく事務局員として二塚裕子さん(日本大学文理学部国文学科卒 24才)が専任されましたのでご紹介いたします。